



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 由利本荘市立岩城中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）

【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】

■期 日：2023年6月1日(木)

■ク ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会の3大会に、スピードスケート種目で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意／尊重」と説明。運動の時間は、一生懸命に体を動かし、仲間と協力し、ルールを守ることを意識してほしい。体育委員が前に出て屈伸等の準備体操を行い、その後、スピードスケートのスタート姿勢からその場で腰を落としたまま10秒間の足踏み運動を実施。

○主運動等



・準備運動は「言うこと一緒、やること一緒」を実施(全5回)。先生の掛け声に合わせて、両足を揃えて前後左右にジャンプする。4回目からは「言うこと一緒、やること逆」にルールを変更し、皆で声を出しながら行う。主運動は「並んでボール送り」を実施(全3回)。班毎に後ろ向きに縦に1列に並び、頭上からボールを渡す。渡した後は列の最後尾に並び、折り返し地点のコーンを右回りして戻る。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目はボールを選択。途中作戦タイムを設けて実施。



・運動の時間を振り返り、一生懸命頑張る、声を掛け合い協力する、ルールを守る等、皆の行動はオリンピックバリューの全てを実践していた。運動の時間で経験したことや感じたことを覚えておいてほしい。座学の時間は、皆の経験や日頃の行動、考え方やこれからの目標に対する一人一人の思い等、どのようにオリンピックバリューに結びついているかを考える時間にしようと思え、授業終了。

- **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）
【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】
- **期日**：2023年6月1日(木)
- **クラス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、アルペールビル1992冬季大会の映像を見ながら競技について説明。自身が出場した種目は500mで、当時は時速約55kmのスピードで滑った。金メダル獲得を目指したが、100分の4秒及ばず銀メダルだった。100分の4秒とは距離に例えると約42cm程、スケートシューズ1足分だ。悔しい思いはあったが、金メダルを獲った選手は、自身より100分の4秒努力し続けた結果だと相手の努力に敬意を払った。皆に伝えたいことは、どんな目標でも良いのでチャレンジしてほしいと話す。

○グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたり、考えたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発表：エクセレンス：「一生懸命取り組む」「ボールを落としても諦めない」「目標を持って取り組む」等
 フレンドシップ：「相手がボールを取りやすいように工夫する」「チームワークを大事にする」「思いやりを持つ」等
 リスペクト：「お互いの意見を尊重する」「ルールを守りながら作戦を考える」「声掛けを忘れない」等



・運動と座学の時間を振り返り、皆で協力してボール送りに取り組んだり、作戦タイムやグループワークでは友達と意見を交わし、お互いを思いやることのできるのオリンピックバリューであり、オリンピックに出場した選手だけのものではなく、皆にとっても大切なことだ。今まで以上にオリンピックを身近に感じてもらえたと思う。特に皆は挨拶がとても良くできる。その気持ちをずっと持ち続け、目標に向かってチャレンジすることを忘れないでほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）

【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】

■ **期** 日：2023年6月1日(木)

■ **ク** ラ ス：2年B組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スピードスケート種目でアルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会に3大会連続で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「協力」「チームワーク」、リスペクト：「敬意／尊重」「ルールを守る」「感謝」と説明。体育委員が前に出て準備体操を行った後、スピードスケートのスタート姿勢から10秒間その場で足踏み運動を実施。

○主運動等



・準備運動は「言うこと一緒、やること一緒」を実施(全6回)。先生の掛け声に合わせて、両足を揃えて前後左右にジャンプする。4回目からは「言うこと一緒、やること逆」にルールを変更し、皆で声を出しながら行う。主運動は「並んでボール送り」を実施(全3回)。班毎に後ろ向きに縦に1列に並び、頭上からボールを渡す。渡した後は列の最後尾に並び、折り返し地点のコーンを右回りして戻る。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目はボールを選択。途中作戦タイムを設けて実施。



・運動の時間を振り返り、作戦タイムで皆が一生懸命考え、意見を出し合っている姿は素晴らしい。全てがオリンピックバリューにつながっている。座学の時間は、自身のオリンピック出場の経験を通して、オリンピックバリューの考え方を具体的に話す。皆も運動の時間に感じたオリンピックバリューを思い出し、今後の日常生活に活かせることに気づき、より深く考える時間にしようとし、授業終了。

■ **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）

【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】

■ **期 日**：2023年6月1日(木)

■ **ク ラ ス**：2年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、目標に向かってチャレンジすることの大切さを知ってほしいと授業の目的を伝える。自身が出場した1992年のアルペールビル冬季大会の映像を見ながら競技説明。自身が履いていたスケートシューズを披露し、現役時代の途中でルール改正があったことで、様々な困難なこともあったが、ルールを守ることが大事なことを学んだ。金メダルを獲れなかった直後は悔しさが大きかったが、100分の4秒負けた相手には、自身以上の努力があったから金メダルが獲れたんだと尊敬する気持ちを持った。

○グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたり、考えたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「最後まで諦めない」「作戦を工夫する」「ベストを尽くす」「ミスを少なくするために丁寧にやる」等
 フレンドシップ：「声を掛け合う」「相手を思いやってボールを渡す」「最後まで協力する」「つなぐ気持ちを持つ」等
 リスペクト：「ルールを守る」「仲間の意見を尊重する」「作戦をみんなで共有する」等



・運動と座学の時間を振り返り、ボール送りで最後まで諦めずに取り組んだこと、自分の班だけではなく他の班も一生懸命応援できたこと、グループワークでは皆が意見を出し合い協力してまとめたことは、普段の生活の中にオリンピックバリューがあることに気付いてくれたと思う。この学校に来て特に感じたことは、皆が率先して元気に挨拶してくれることだ。挨拶の大切さを改めて自身も気付かせてもらい感謝している。これからも目標に向かってチャレンジしてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



■記念品贈呈

・2年A組



■修了証贈呈

